

2015年12月18日

中日本高速道路株式会社

2016年3月期 中間決算（連結）の概要

1. 業績の概況 当中間連結会計年度（自 2015年4月1日 至 2015年9月30日）（単位：億円）

	2015年度 上期実績 A	2014年度 上期実績 B	増 減	
			金額 A-B	% A/B*100
営業収益	3,810	5,265	▲1,454	72.4
高速道路事業	3,592	5,050	▲1,457	71.1
(料金収入)	3,354	3,201	152	104.8
(道路資産完成高)	233	1,844	▲1,611	12.7
(その他)	4	4	0	109.0
関連事業	217	214	2	101.4
(休憩所事業)	165	164	1	100.6
(その他)	52	50	1	103.8
営業費用	3,607	5,177	▲1,570	69.7
高速道路事業	3,424	4,991	▲1,566	68.6
(道路資産賃借料)	2,405	2,347	58	102.5
(道路資産完成原価)	233	1,844	▲1,611	12.7
(管理費用等)	785	799	▲14	98.2
関連事業	183	186	▲3	98.0
(休憩所事業)	131	133	▲2	98.1
(その他)	52	53	▲1	97.7
営業利益	202	87	115	232.5
高速道路事業	168	59	108	282.9
関連事業	34	27	6	124.8
経常利益	209	100	108	208.2
中間純利益^{※1}	137	57	79	236.8

※1 中間純利益は、「親会社株主に帰属する中間純利益」を記載しております。

※2 実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(注) 事業内容の種類、性質等の類似性、損益集計区分及び関連資産に照らし、以下のように事業区分を行っております。

事業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他（関連）事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、カードサービス事業等

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

○安全性向上3カ年計画に基づく施策

道路上などに設置された構造物（ジェットファン、大型標識等の重量構造物など）の撤去、移設または二重の安全対策を引き続き実施しております。道路上の重量構造物に対する安全対策進捗率は、2015年9月末時点で74%です。

○ネットワークの整備（今後の開通予定）

・新東名高速道路

浜松いなさジャンクション～豊田東ジャンクション間55km…2016年2月13日開通予定

(上期業績)

○営業収益は3,592億円（前年同期比▲1,457億円減）となりました。

このうち、料金収入は3,354億円（同+152億円増）でした。

営業収益の増加は、前年4月の料金割引制度の再編に際して、激変緩和のために割引の一部を前年6月まで継続していたことによる減収の反動によるものです。

なお、1日あたりの取扱通行台数は193万台（同+2.2%増）でした。

○営業収益及び営業費用のうち道路資産完成高及び道路資産完成原価は、

それぞれ233億円（同▲1,611億円減）となりました。※

これらの減少は、前年同期において圏央道（相模原愛川インターチェンジ～高尾山インターチェンジ間）及び舞鶴若狭道（小浜インターチェンジ～敦賀ジャンクション間）の開通に伴い道路資産完成高・完成原価を計上した反動によるものです。

※道路資産完成高及び道路資産完成原価の減少は、当中間連結会計期間の損益に影響していません。

○営業利益は168億円（同+108億円増）となりました。

(2) 関連事業

(実施した施策)

○新規サービスエリアの開業（今後のオープン予定）

・新東名高速道路

NEOPASA岡崎（集約）・・・・・・・・・・2016年2月13日オープン予定

長篠設楽原パーキングエリア（上り・下り）・・ "

○各種イベントの開催・地域との連携

・新東名高速道路、東名高速道路、中央自動車道の主要なエリアにおいて、テレビ局または有名キャラクターなどとのタイアップイベントや、WEBサイトと連動した物産展を開催するなど、サービスエリアの新しい魅力を高める売り場づくりを展開しました。

・地域食材を活かした「メニューコンテスト」の開催や地元野菜の販売や地元商品の品揃えの充実など、地域活性化や地域社会との連携強化に努めました。

○テラスゲート土岐の開業

・2015年4月にNEXCO 中日本開発(株)において東海環状自動車道 土岐南多治見インターチェンジの隣接地に複合商業施設「テラスゲート土岐」をオープンさせました。

(上期業績)

○営業収益は217億円（前年同期比+2億円増）となりました。

これは、主に、ゴールデンウィークやシルバーウィークにより、休憩所事業における店舗売上が増加したことによるものです。

○営業利益は34億円（同+6億円増）となりました。

3. 通期見込

(単位：億円)

	2015年度 通期見込 A	2015年度 通期見込 (2015.6.8公表) B	増 減	
			金額 A-B	% A/B*100
営業収益	12,701	14,281	▲1,580	88.9
高速道路事業	12,198	13,672	▲1,474	89.2
(料金収入)	6,504	6,079	425	107.0
(道路資産完成高等)	5,695	7,594	▲1,899	75.0
関連事業	503	609	▲106	82.6
(休憩所事業)	318	313	5	101.5
(その他)	185	296	▲111	62.6
営業利益	39	13	26	292.4
高速道路事業	▲7	▲30	23	23.4
関連事業	46	44	2	105.4
経常利益	59	4	55	1,536.2
当期純利益	41	3	38	1,594.0

(通期見込の摘要)

(1) 高速道路事業

○料金収入 (前回 6,079 億円→今回 6,504 億円 (+425 億円増))

- ・ 上期の料金収入の状況を踏まえて通期見通しに反映しました。

○道路資産完成高等 (前回 7,594 億円→今回 5,695 億円 (▲1,899 億円減))

- ・ 事業の進捗状況を精査して、当期の道路資産完成高を見直しました。

○営業損失 (前回▲30 億円→今回▲7 億円 (+23 億円改善))

- ・ 料金収入の増加を受けて、損益改善の見通しを反映しました。
- ・ 高速道路事業営業損失の見通しには、高速道路事業に係る利益剰余金 (安全性向上積立金) を活用して安全性向上に関係する事業を実施することによる費用 (40 億円) を含んでいます。

(2) 関連事業

○休憩所事業・営業収益 (前回 313 億円→今回 318 億円 (+5 億円増))

- ・ 中間決算の状況を踏まえて、休憩所事業の店舗売上の見通しを反映しました。

○その他関連事業・営業収益 (前回 296 億円→今回 185 億円 (▲111 億円減))

- ・ 受託事業の減少を反映しました。受託事業については、高速道路区域又はその近接部分における工事等を第三者から受託するもので、金額規模によらず損益への影響が限定的です。

○営業利益 (前回 44 億円→今回 46 億円 (+2 億円改善))

- ・ 休憩所事業の店舗売上の増加を受けて、損益改善の見通しを反映しました。

以 上